

昭和57年度畑作関係除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和57年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和57年12月9～10日、協和銀行秋葉原支店会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、基礎試験7剤、作用性試験20剤、適用性試験40剤、細

粒剤試験10剤であった。

このうち、適用性試験、細粒剤試験については慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行なった。その結果は、次表の通りである。

昭和57年度 畑作関係除草剤試験供試薬剤および判定・使用基準一覧表

適用性

薬剤名 (委託者)	対象作物	判定	処理方法	処理時期	使用量 (/a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
1. AH-501® (24%) 液 (旭化成工業)	ばれいしょ	実・継	茎葉	萌芽前	10~20 ml	全土壌	寒地 寒冷地 暖地	継: 適用地域拡大(温暖地). 低薬量(10 ml)の効果の確認(寒冷地).
	こんにゃく	実・継	茎葉	萌芽前	20 ml	全土壌	寒冷地 温暖地	継: 薬量減の検討.
2. AH-502 水和 (旭化成工業)	こんにゃく	継						継: 初年目(有望).
3. アラクロール 乳	落花生	実	土壌	播種後	30~60 ml	全土壌	温暖地	イネ科雑草優占圃場で使用する.
						火山灰土	暖地	
	とうもろこし	実・継	土壌	播種後	20~40 ml	全土壌	寒地	イネ科雑草優占圃場で使用する. 継: 出芽前の低薬量の検討(20 ml).
				出芽前	30~40			
(ラッソー普及会)	甘しょ	実・継	土壌	挿苗後	30~60 ml	全土壌	温暖地 暖地	イネ科雑草優占圃場で使用する. 生食用品種のうち紅赤などは薬害が出や

薬 剤 名 〔委 託 者〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
3. アラクロール 乳 (つづき) 〔ラッソー普及会〕								すいので使用をさける。 継：品種間差異の検討 (生食用品種)。
4. アラクロール 乳+アトラジ ン水和 〔ラッソー普及会〕	とうもろ こし	実・継	土 壌	播 種 後	20~40 ml +15 g	全 土 壌	寒 地	継：出芽前の低薬量の検討 (アラクロール 20 ml)。
				出 芽 前	30~40 +15			
5. アラクロール 乳+C A T 水和 〔ラッソー普及会〕	落 花 生	実・継	土 壌	播 種 後	30~40 ml +10 g	全 土 壌	温暖地東部	継：C A T の低薬量の検討 (温暖地, 5 g)。
					30~40 +10~15	火山灰土	暖 地	
	甘 し ょ	実・継	土 壌	挿 苗 後	30~40 ml +5~10 g	全 土 壌	温暖地東部	生食用品種のうち紅赤などは薬害が出やすいので使用をさける。 継：品種間差異の検討 (生食用品種)。
					30~40 +10~15		暖 地	
6. アラクロール 乳+リニュ ロン水和 〔ラッソー普及会〕	ばれいし よ	実・継	土 壌	植 付 後	30~40 ml +10~15 g	全 土 壌	寒 地	継：アラクロール乳の低薬量の検討 (20 ml)。
7. アラクロール 乳+P L水和 〔ラッソー普及会〕	てんさい (移植)	継?						薬害。
8. O G - 119 乳 〔日本チバガイギー〕	小 豆	中 止						薬害。
	菜 豆	実・継	土 壌	播 種 後	20~30 ml	全 土 壌	寒 地	イネ科雑草優占圃場で使用する。 継：適用地域拡大。
	甘 し ょ	実	土 壌	挿 苗 後	20~30 ml	砂 土	温 暖 地	イネ科雑草優占圃場で使用する。
					20~40	火山灰土		
					20~30	全 土 壌	暖 地	
	てんさい (移植)	実	土 壌	移 植 後	20~30 ml	全 土 壌	寒 地	イネ科雑草優占圃場で使用する。
9. DNBPA 乳 (北海三共)	ばれいし よ	継						継：効果・薬害の検討 (初年目)。

薬 剤 名 (委 託 者)	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意,その他
10. DPX-44 〔丸和バイオケ ミカル〕	さとうき び (春植え)	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
11. グリホサート 液 〔日本モンサント〕	さとうき び (春植え)	実・継	茎 葉	植 付 前	50～100ml (散布水量5 ～10 l)	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	継：夏植えについて 検討。
12. HSW-803 水和 〔北海三共・日 本チバガイギー〕	大 豆 とうもろ こし	実	土 壌	出 芽 前	30～40 g	全 土 壌	寒 地	
13. HSW-821 水和 〔北海三共〕	大 豆	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
14. HW-863 乳 〔保土谷化学工業〕	大 豆	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
15. KUH-813 乳 〔クミアイ化学 工業〕	大 豆	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
16. M & B-9057 液 〔ローヌプーラン〕	さとうき び (春植え)	実・継	茎 葉	生育初期	100～120ml	全 土 壌	沖 縄 県	継：マルチ栽培中耕 後の検討, 地域拡 大 (暖地)。
17. MO-338 乳 〔三井東圧化学〕	さとうき び (春植え)	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
	さとうき び (夏植え)	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
18. MSR-794 水和 〔丸和バイオケミ カル・昭和ロ ーディア化学〕	大 豆	実	土 壌	播 種 後	10～15 g 10～20 15～25	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	沖積土壌では薬害が 出やすいので注意す る。
19. MSR-794㊤ 水和 〔丸和バイオケミ カル・昭和ロ ーディア化学〕	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	15～20 g	全 土 壌 火山灰土	寒 冷 地 温暖地東 部	継：効果・薬害の確 認, 適用地域拡大 (暖地)。
20. NC-302 フロアブル	大 豆	継						継：効果・薬害の検討, 特に展着剤の検討。

薬 剤 名 〔委 託 者〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
20. NG-302 (つづき) 〔日産化学工業〕	落 花 生	継						
21. NH-719 水和 〔日本農薬〕	大 豆	継						継：葉量について検討, 成分未公開。
22. NH-720 水和 〔日本農薬〕	大 豆	継						継：葉量について検討, 成分未公開。
23. NP-48 水溶 + P L 水和 + レナテン 〔日本曹達〕	てんさい (移植)	実	茎 葉	雑草発生 始期	10 g + 20 ml + 15 ml	全 土 壤	寒 地	
24. NP-48 水溶 + フェンメデ イファム乳 〔日本曹達〕	てんさい (移植)	実	茎 葉	雑草発生 前期	10 g + 60 ml	全 土 壤	寒 地	
25. NP-55 乳 〔日本曹達〕	大 豆	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 3 ~ 5 葉期	15 ~ 20 ml およ び 10 ml + マシ ン油 0.4 %	全 土 壤	全 域	NP-48 に準ずる。 継：マシン油加用による効果の確認, および葉量低減の 検討。
	菜 豆	実・継	茎 葉	イネ科雑 草 3 ~ 5 葉期	15 ~ 20 ml	全 土 壤	寒 地	NP-48 に準ずる。 継：地域拡大 (寒冷 地)。
	てんさい (直播)	実	茎 葉	イネ科雑 草 3 ~ 5 葉期	15 ~ 20 ml	全 土 壤	寒 地	NP-48 に準ずる。
	てんさい (移植)	実	茎 葉	移植後イ ネ科雑草 3 ~ 5 葉 期	15 ~ 20 ml	全 土 壤	寒 地	NP-48 に準ずる。 (シバムギ・レッド トップ対象では中止)。
26. OK-622 液 〔大塚化学薬品〕	ばれいし よ	実	茎 葉	萌 芽 前	10 ml	全 土 壤	寒 地	
				植付後ま たは萌芽 前	20 ~ 30	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地	
27. P L 水和 〔レナパック〕 普及会	てんさい (移植)	継 ?						
28. RO-40 粒 〔ローニート 研究会〕	ばれいし よ	中 止						葉害。

薬 剤 名 (委 託 者)	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
28. RO-40 粒 (つづき) 〔ローニート 研究会〕	てんさい (移植)	実・継	土壌混和	移 植 前	500～700g	全 土 壌	寒 地	継：シバムギに対す る殺草効果の検討。
29. S-28・U 粒 { U-クレマー ト研究会 }	こんにゃ く	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
30. SAP・プロメ トリン 乳 〔日本農薬〕	とうもろ こし	実・継	土 壌	出 芽 前	60～80ml	全 土 壌	寒 地	継：適用地域拡大。
31. SKH-21 水和 〔シェル化学〕	大 豆	継						継：効果・薬害の検 討 (初年目)。
32. SL-236 乳 〔石原産業〕	小 豆	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10ml	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	NP-48に準ずる。 継：収量に対する薬 害 (収量減) の原 因究明。
	菜 豆	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10ml	全 土 壌	寒 地	NP-48に準ずる。 金時類に適用。 継：適用地域拡大。
	甘 し ょ	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10ml	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	NP-48に準ずる。 継：低薬量(7.5ml) の確認(暖地)。
33. SL-287 水和 〔石原産業・シ ェル化学〕	大 豆	継						継：処理時期、効果・ 薬害の検討。 広葉雑草に対する 効果の向上 (初年 目)。
34. SSH-43D 水和 〔塩野義製薬〕	さとうき び (春植 え)	継						継：薬量減の検討 (初年目)。
	さとうき び (夏植 え)	継						
	さとうき び (株出 し)	継						
35. SSH-55 乳 〔塩野義製薬〕	大 豆	継						継：薬量増で効果・ 薬害の検討 (初年 目)。

薬 剤 名 〔委 託 者〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
36. TAW-19 水和	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	25~30 g	全 土 壌	寒 冷 地 温暖地東部	継：薬量増を含め、 効果の確認。
(トモノ農薬)	ばれいし よ	実	土 壌	萌 芽 前 (雑草発 生始まで)	20~30 g	全 土 壌	寒 冷 地	
37. トリフルラリ ン乳+プロメ トリン水和	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	20~25 ml +15 g	全 土 壌 (砂土・ 砂壤土を 除く)	暖 地	水田転換畑で使用可 能、ただし砕土・覆 土はていねいにする。 継：効果（プロメト リンの減量）の確 認、適用地域拡大。
(塩野義製薬)								
38. トリフルラリ ン粒+リニュ ロン粒	大 豆	継						継：混合法、処理法 について検討。
(塩野義製薬)								
39. UH-36 水和	大 豆	中 止						
(UH-36研究会)	ばれいし よ							
40. UH-36B 水和	大 豆	中 止						
(UH-36研究会)	ばれいし よ							

細 粒 剤

薬 剤 名 〔委 託 者〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
1. AL-513 細粒 〔デュポンファー イースト・日 本モンサント〕	大 豆	継						継：効果・薬害の検 討（初年目）。
2. アラクロール 細粒 〔日本モンサント〕	大 豆	継						継：効果・薬害の検 討。
3. CG-119・P 細粒	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	500~600 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	水田転換畑でも使用 可能、ただし砕土・ 覆土はていねいにす る。 継：効果・薬害の確 認、転換畑での確 認（暖地）。
(日本チバガイギー)						火山灰土	暖 地	

薬 剤 名 [委 託 者]	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量(/ a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意, その他
3. CG-119・P 細粒 (つづき)	落花生	実・継	土 壌	播 種 後	500～600g	火山灰土	暖 地	継：地域拡大（寒冷地・温暖地）。 マルチ栽培での検討。
	とうもろこし	実	土 壌	播 種 後	500～600g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	
						火山灰土	暖 地	
	甘 しょ	実・継	土 壌	播 種 後	500～600g	火山灰土	温 暖 地	継：適用土壌の拡大。
						全 土 壌	暖 地	
[日本チバガイギー]								
4. KUH-813 細粒 〔クミアイ 化学工業〕	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	500～600g	火山灰土 を除く全 土壌	寒 冷 地 温 暖 地	<u>水田転換畑でも使用可能、ただし砕土・覆土はていねいにする。</u> 継：適用土壌、地域の拡大。
5. MSR-81㊟ 細粒 〔丸和バイオケミ カル・昭和ロ ーディア化学〕	大 豆	継						継：初年目（有望）。
6. S-28UA 細粒 〔住友化学工業〕	ばれいしょ	継						継：初年目（有望）。

注). アンダーラインは、本年度拡大された部分（なお、薬剤名のアンダーラインは本年度始めて使用基準の作成されたもの）。

昭和57年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和57年度水稻・畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、昭和57年12月7日(火)、12月8日(水)、協和銀行秋葉原支店会議室において開催された。

水稻作関係生育調節剤試験は、作用性13剤(のべ45点)、適用性17剤(のべ158点)について行なわれた。本年度新規に実用化可能の判定を得て、使用基準の作成されたものは、S F -